

教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 鳥宮 尚道

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
1. 人間情報学	感性デザイン学
2. 複合領域デザイン学	情報デザイン、工業デザイン
3.	

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 札幌大谷大学		
① 情報デザイン研究ⅠA (演習)	平成24年度より	<単独>オブザベーションからの問題点把握と発想、デザインへの展開を行う
② メディアデザイン基礎ⅡB (演習)	平成25年度～平成27年度	<単独>アナログ作業作品を元にデジタル加工を行いフォーマットに適したデザイン制作を行う
③ 情報デザイン研究ⅡA (演習)	平成25年度より	<単独>インタラクションの要素に軸を置いたデザイン提案を行う
④ 情報デザイン研究Ⅳ (演習)	平成25年度より	<分担>コミュニケーションの問題を発見し、それをテーマとした観察・分析・デザイン提案を行う
⑤ 感性デザイン論 (講義)	平成25年度より	<単独>人間の人体・生理・認知の特性や感性的思考を把握するための各種調査分析手法と活用について
⑥ 卒業制作 (実技)	平成25年度より	<単独>情報デザイン分野における学生のオリジナルテーマによる作品制作
⑦ 情報デザイン研究ⅢA (演習)	平成26年度より	<単独>「はかる」をテーマにプロダクトとインタフェースの提案を行う
⑧ 情報デザイン論 (講義)	平成26年度より	<単独>情報のメディア史としての進化を理解し、多様な表現に触れることで情報のあり方、適した提示法について理解する
⑨ 芸術文化論 (講義)	平成28年度より	<分担>芸術学部の音楽と美術両学科教員のオムニバス授業。人間を中心に発想するデザインについて。
⑩ デジタル基礎B (演習)	平成28年度より	<分担>Adobe Illustrator の基本操作からデザイン提案パネルの制作まで
⑪ メディア基礎C (演習)	平成29年度より	<分担>プロダクトデザインの基礎としての照明課題。光源・素材の選定から加工方法を指導
2) 京都工芸繊維大学大学院		
① アドバンスデザインプロジェクト (実習)	平成18年度 平成21年度	<分担>企業から提示される課題に取り組む産学協同：サムスン電子 (平成18年度)、日進製作所 (平成21年度)
② デザインプロジェクトA (実習)	平成20年度 平成22年度	<分担>企業から提示される課題に取り組む産学協同：ソニー (平成20年度)、パナソニック電工 (平成22年度)
③ デザイン職能論 (講義)	平成18年度 平成22年度	<分担>現代に求められるデザイナーの社会的責任・役割について

事 項	年月日	概 要
④デザイン解析工学（講義）	平成 26 年度～ 平成 27 年度	<単独>ユーザーの心理面を捉える調査法として主に定量的手法の解説と調査の実践を通して理解、活用する
3) 京都工芸繊維大学		
①デザイン基礎（実習）	平成 16 年度～ 平成 22 年度	<分担>立体造形、スケッチ、Illustrator 講習など造形に関わる基礎課題
②デザインプラクティスⅠ（実習）	平成 16 年度～ 平成 22 年度	<分担>デザインに必要な表現技術の基本を習得（図面作成を担当）
③デザインプラクティスⅡ（実習）	平成 17 年度～ 平成 22 年度	<分担>デザインに必要な表現技術の基本を習得（3次元CGを担当）
④デザインプラクティスⅣ（実習）	平成 15 年度～ 平成 18 年度	<分担>ウッドデッキ制作 平成15, 16, 18年度：大学構内、平成17年度：京丹後市
⑤デザインプロジェクトⅠ（実習）	平成 17 年度～ 平成 22 年度	<分担>オブザベーションを中心とした問題発見を通じてデザインする
⑥デザインプロジェクトⅡ（実習）	平成 17 年度～ 平成 22 年度	<分担>人と情報をつなぐために最適な関係を構築するためのインタラクションをデザインする
⑦デザインプロジェクトⅢ（実習）	平成 17 年度～ 平成 22 年度	<分担>自分の生活環境から問題点を発見し、その解決策を企画、デザインする
⑧感性デザイン論（講義）	平成 20 年度～ 平成 22 年度	<単独>人間の認知や感性的思考を把握するための各種手法について
4) 大阪樟蔭女子大学		
①プロダクトデザイン論（講義）	平成 18 年度～ 平成 23 年度	<単独>具体的事例をもとに発想手法、コンセプト生成、人と物との関係性について
5) 京都女子大学		
①デザイン材料論（講義）	平成 21 年度～ 平成 23 年度	<単独>デザインワークに関わる主要な素材、加工道具について
6) 北海道武蔵女子短期大学		
①芸術と文化（講義）	平成 26 年度より	<単独>デザインにおける文化史を主に産業革命以降に焦点をあて講義。生活における視覚イメージ、デザインにおける社会的背景について解説。
2 作成した教科書、教材 1)		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
① 公開講座：京都府地域社会人キャリアアップ推進事業	平成15年12月	「地域社会人・商品開発とデザイン」について講義及びワークショップ
② 講演：大阪産業創造館	平成16年1月	人間中心のものづくり「人間を中心に据えるモノづくりが売れ筋を変える」
③ 公開講座：京都府地域社会人キャリアアップ推進事業	平成16年11月	「女将さん・経営とデザイン塾」公開講座及びアンケート調査報告
④ セミナー：滋賀県工業技術総合センター	平成 21 年 3 月	「ものづくり企業が感性価値に取り組むために」感性価値創造支援セミナー、デザインワークショップの報告

事項	年月日	概要
⑤ 講演：京都工芸繊維大学創造連携センター, 京都市, 京都高度技術研究所	平成 22 年 1 月	「感性価値の把握とデザイン」感性デザイン研究の事例報告
⑥ 公開講座：札幌大谷大学	平成 25 年 11 月	「モノのデザインの変遷とこれから」
⑦ 台湾大学との国際ワークショップ	2019年8月	台湾雲林科技大学、台湾華梵大学、台湾台中科学技術大学、札幌市立大学との学生の文化交流活動として、「human bond」をテーマに札幌を舞台としたデザインワークショップを開催した。
5 その他		
① TOKYO DESIGNERS WEEK	平成 16 年度～平成 22 年度	京都工芸繊維大学として出展 2004, 2007, 2009, 2010 学生個人賞、2009 学校賞を受賞
② 草津あかりイベント参加	平成 20 年度	京都工芸繊維大学として出展 屋外照明作品の制作

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格, 免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
① 製品ブランド「ARVORE」のデザイン	平成 11 年 7 月	革メーカーであるホクヨーはこれまでに自動車革シートの製造を中心に、鞆、靴などの西欧を行なってきた。扱う革の種類が多い中で、新規に開発した鞣し技術によって製造された革素材を新たなブランドとしてネーミングとロゴデザインを行なった。
② 株式会社ホクヨーのグラフィックデザイン	平成 12 年 1 月	社名の他に「」を社の方針として掲げるにあたり、名刺、ステッカー作業着などのリニューアルデザインとしてトータルグラフィックデザインを行なった。
③ ISDN ルータ「FITLE-net」の製品デザイン	平成 12 年 11 月	これまでの企業向け製品から、市場におけるシェア拡大を狙い、企業向け製品と新たにエンドユーザ志向を意識し、新たな製品開発を行った。ターゲットユーザーと機能の違いから 2 筐体をデザイン。
④ ネットワーク接続機器「MPC」の製品デザイン	平成 13 年 1 月	企業内通信を移動体通信にまで拡張することを目的に、普及が進んでいる ISDN ルータ上に、移動体特有の通信手段を付加した製品のデザイン。
⑤ 釣鐘のデザイン	平成22年3月	21～京都感性商品開発研究会__JAPAN KYOTOの響をテーマに研究開発支援を受け、卓上用の釣鐘をデザイン提案。

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 建築設計資料集成: 物品	共著	平成 15 年 4 月	丸善 286 頁	(担当部分概要) p. 31~35 担当部分:「休息・就寝」 建築空間に配置・利用される物品を 幅広い視点から集め、幅・高さ・奥 行きなどの寸法を図示したものであ る。1978 年に刊行された本書は建築 設計において重要な参考資料となっ ているが、掲載内容を現代の生活行 為から掲載物品を再検証し、最新の 規格・標準に関する解説を加えた。 (編者) 日本建築学会 (共著者) 渥美浩章, 鳥宮尚道, 他 55 名
(学術論文) 1. The System and User Interface Design of the Tsukuba Internet Museum	共著	平成 9 年 10 月	<u>2nd Asian Design Conference</u> , p11~18	WWW では表現の可能性が広がり、様々 なグラフィック処理が可能になって きているが、その実操作の統一感を 整理することが難しいように思われ る。本論は既に公開しているサイト 内において操作プロトコルを記録 し、そこから操作に関する幾つかの 特徴と問題点を発見した。 (共著者) 山中敏正, 木村浩, 鳥宮尚 道
2. New Approach of Experience Design for Organizing Educational Structure of Universities in Japan	共著	平成 17 年 11 月	<u>International Design Congress IASDR</u> , N00000808JPLIP00807.p df (CD-ROM)	経験価値の視点から学生をユーザー と見立てた大学満足度調査。アンケ ート調査から 5 つの潜在因子を抽出 し、共分散構造分析にて因子間の因 果関係を調査した。結果、大学満足 度の向上には教育を重視した施設・ 設備の充実が最重要課題として明ら かになった。 (共著者) ©鳥宮尚道, 福田民郎, 榎 勝彦, 森本一成
3. 連想樹形図を用い た思考プロセスの 把握	単著	平成 22 年 11 月	<u>日本デザイン学会デザ イン学研究 57 巻第 4 号</u> , p. 51~56	概念構築に伴うイメージ形成につい て、sexy をテーマに解釈を試みた。 思考の連想過程に着目し、その記録 方法として連想樹形図の作成を試行 し、そのデータを用いて数量化Ⅲ類、 クラスター分析、DEMATEL 法によつて 概念内容を明らかにした。
4. 瓶子形状の需要と 象徴的な器形要素の検 証	単著	平成 23 年 1 月	<u>日本デザイン学会デザ イン学研究 57 巻 5 号第 5 号</u> , p. 47~52	祭祀に用いられる瓶子の形の由来に ついて調査し、その象徴性を表すの に最も適した形状をコンジョイント 分析を用いて明らかにした。結果、 上下のつながり部形状が最も重要視 している事が分かった。
5. 印象把握のための画 像を用いた複合評価シ ステムの構築	単著	平成 23 年 3 月	<u>日本デザイン学会デザ イン学研究 57 巻第 6 号</u> , p. 89~94	Web 上で複数画像を用いた簡易に行 えるアンケートシステムを構築し、 得られたデータを数量化Ⅲ類、クラ スター分析、多次元尺度構成法を用 いて分析することで、印象把握を試 みた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 6. デザイン支援のための概念把握手法に関する研究 (博士論文)	単著	平成 25 年 3 月	博士論文 (学術) 京都工芸繊維大学 博乙第 188 号	デザインプロセスの概念設計段階でいかに概念を把握することが重要かをとらえ、デザインプロセスに簡便に導入可能で、調査手法の短縮に貢献し、被験者に負担をかけない概念設計手法を検討した。成果として Web を用いた定性的なアンケート手法を開発し分析結果を得る新たな手法を開発し、検証した。
(口頭発表) 1. 筑波大学インターネット美術館の方法とその検証に関する考察	共著	平成 8 年 10 月	第 43 回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 106	WWW 上の情報の提示方法に客観的指針を得ることを目的とし、プロトコル分析によって、情報のレイアウトに起因する探索行動を問題として発見した。(共著者) ◎ <u>鳥宮尚道</u> 、松田肇、駒宮祐子、羅丹、山中敏正、木村浩
2. 感性評価構造モデルのプロトタイプ検索	共著	平成 9 年 11 月	第 44 回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 47	感性評価構造のモデル化を行うための基礎調査としての人の感性的反応に関する考察を行なった。結果、人の認知過程は思考の順序を直列的に辿ったものではなく、多様な並列プロセスを取っていることと推測された。(共著者) 原田昭、五十嵐浩也、岡崎章、張浦華、 <u>鳥宮尚道</u>
3. モデル製作における感性評価の研究	共著	平成 9 年 11 月	第 44 回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 49	3D モデル検討時の内容に感性的評価がどう伝わっているかを明らかにし、感性的なイメージ情報を伝える方法とインターネット上での利用方法を構築することを目的とした基礎実験。(共著者) 岡崎章、原田昭、五十嵐浩也、原田泰、張浦華、 <u>鳥宮尚道</u>
4. エフェクト画像に対する感性評価	共著	平成 9 年 11 月	第 44 回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 51	視覚情報はユーザーの意思決定に影響を及ぼす。これは視覚情報が意味性を持ち、感情を喚起するものと考えられる。そこで視覚情報の持つ特徴をより強めるため、エフェクトフィルタを通した画像に対するユーザー評価を行った。(共著者) 張浦華、原田昭、五十嵐浩也、原田泰、岡崎章、 <u>鳥宮尚道</u>
5. 同一対象物から得られる視覚情報と触覚情報の感性構造	共著	平成 10 年 6 月	第 15 回日本認知科学会研究発表大会発表論文 集 p. 146~147	情報機器のマルチモーダルインタフェースの中で特に視覚情報と触覚情報の関係に着目した。結果、見たときと実際に触った時に喚起されるイメージは複数の被験者間において、イメージの統一性に大きく差が生じることが示唆された。 (共著者) ◎ <u>鳥宮尚道</u> 、原田昭、山中敏正

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(口頭発表) 6. 3次元CADとリアルモデルの比較における形態イメージの差異	単著	平成14年3月	第47回日本デザイン学会研究発表大会梗概集 p. 224~225	直感的にデザインされた形状をCG化し、NC工作機で立体物を作成し、双方から得られるイメージを比較検証した。視覚情報から得られるイメージと触覚情報から得られるイメージとでは被験者のイメージが異なることが明らかになり、原因となる形状部位を示した。
7. 高齢者の自助生活のためのカレンダー・システムの提案	共著	平成29年9月	ヒューマンインタフェースシンポジウム2017	高齢者の生活観察を通じ、近い将来の生活の構造を明らかにし、この構造に基づいて、ニーズを満たすために必要な音声対話型のインターフェースを備えたプロトタイプを開発。試行の結果、日常的にスケジュールを管理し、家事をする高齢者がシステムをよく捉えていることを示した。 (共著者) 榎 勝彦, 畔柳 加奈子, 伊賀 陽祐, 栗野 正雄, 羽田 亜美, 井上 裕功, <u>鳥宮 尚道</u>
(その他) 1. 複数環境光下における光源のイメージ評価	共著	平成12年3月	筑波大学感性評価構造モデル構築特別プロジェクト研究報告集 vol. 4 p. 231~235	EL、光源の視認性について、他の光源との比較実験を行った。多くの使われ方が考えられるEL光源の特徴を感性的な視点から評価した結果、他の光源よりも視認性が高く、光源色によるイメージを明確に伝えることができることを示唆した。
2. ホームセキュリティシステム「BBee」	共同	平成20年3月	日本デザイン学会デザイン学研究特別号 vol. 15-3, No. 59 p. 37	特集/安心、安全のデザイン力 製品化されたホームセキュリティシステムのデザインニーズ、形状を決めたデザインコンセプトについて紹介した。 (共著者) 三橋幸次, <u>鳥宮尚道</u>
3. 問題発見のための観察手法と解決方針～プリンタを事例に	単著	平成25年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第43号, p. 45~52	製品対象の開封からセットアップまでの様子を観察し、発生した複数問題を「情報からの対処」「経験からの対処」「情報誤認・物理障害」「情報不足による困惑」と整理し、それぞれの問題の解決方針を策定した。
4. 観察調査とDEMATEL法によるピーラーデザインの要素研究	単著	平成27年度3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第44号, p. 57~61	使用状況の観察から評価グリッド法によるユーザーの価値観を抽出し、ピーラーデザインに求められるデザイン要素を明らかにした。
5. 絵画指導における学生の理解度に関する一考察	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号, p. 71~78	美術教育の場での教員と学生のコミュニケーションギャップについて、教員の指導内容を記録し、指導を受けた学生の理解度について調査した。結果、指導を受けた本人はその内容についてよく理解できたと考えられる結果となったが、指導を傍聴した他学生にとっては理解が難しいと感じられた内容も確認された。(共著者) © <u>鳥宮尚道</u> , 川口浩, 松村繁, 佐々木剛, 山川真一

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 6. 作品制作と鑑賞者の視線情報に関する基礎的調査～絵画学生を対象として～	共著	平成 30 年 3 月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第 48 号, p. 37～43	絵画作品について制作者が見てほしい箇所と作品鑑賞者の鑑賞時の視線位置を調査した。結果、両者は必ずしも一致せず、制作者は鑑賞者の視線を意図通りに誘導できていないことが明らかとなった。また制作者自身は鑑賞者の視線情報を制作途中で確認し積極的に活用したいという意向があることがわかった。(共著者) ◎ <u>鳥宮尚道</u> 、川口浩、松村繁、佐々木剛
(作品) 1. Breeze Wave	単著	平成 8 年 2 月	かわさき産業デザインコンペ報告カタログ	「クリスタルライトを利用した照明器具」というテーマのもと、光源部分の両端にアームを設け、そのアームに 2 つの可動部を設置し、有機的な動きを実現した。これをサイズの異なる 6 機を連動させることで、空間内の空気の流れを表現することができる。自然界の要素を室内に取り込むことを目的としたデザイン。 ＜神奈川サイエンスパーク特別賞＞
2. SELENE PROJECT	共同	平成 10 年 11 月	NASDA 月面利用計画 国際シンポジウム (京都) http://moon.nasda.go.jp/ja/selene/	担当部分:CG モデリング/アニメーション設定、編集 月面探査機着陸時のコンピュータシミュレーションムービーの制作。 NASDA からの依頼により、月、太陽、地球の位置関係を把握し、衛星、着陸機への光の当たり方、それぞれの向き、パネルの展開順序など、現在計画されている動き方を NASDA の技術資料に基づき制作。 (共同研究者) 原田昭, <u>鳥宮尚道</u> , 田川彰人
3. 防犯装置「BBee」の製品デザイン	共同	平成 13 年 10 月	<u>日本デザイン学会作品集</u> , vol. 8, p. 26～29	ホームセキュリティシステムのデザイン。製品デザインではインテリアやファッションの感覚に融合し、かつ信頼性と親しみやすさを表現することを追求した。さらに、製品デザインとの一貫性を考慮し、広告展開、パッケージデザインまでのトータルなデザインを展開した。 (共同研究者) 三橋幸次, <u>鳥宮尚道</u>
4. imagination	共同	平成 17 年 3 月	リアライズ・モバイル・コミュニケーション株式会社, コンテスト報告カタログ	記入内容をデジタルデータとして通信できる専用のデジタルペンとノートの利用法とニーズを研究し、グループワークにおける発想支援につながるデザイン案を考案した。 ＜「デジタルペンを利用した先端アプリケーションコンテスト」特別賞＞ (共同研究者) ◎ <u>鳥宮尚道</u> , 竹内啓行, 阿部壮一郎、奥田将斗

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(作品) 5. 丹後あじわいの郷ウ ッドデッキ、ウッドサー クル、ウッドオブジ ェのデザイン	共同	平成 18 年 3 月	<u>日本デザイン学会作品 集</u> , vol. 11, p. 38~41	大学・京丹後市・丹後あじわいの郷 の産学官連携による、郷のシンボル。 集客につながるウッドデッキなど計 5 点の制作を行った。日本デザイン学 会による審査を受け、作品集採用作 品となった。 (共同研究者) ◎ <u>鳥宮尚道</u> , 山本建太 郎
6. Rotate Interface	単著	平成 19 年 6 月	BUTSUGAKU Research Institute	特殊と普遍をテーマとした国際コン ペにおいて、カメラ操作者の撮影姿 勢を基準とした新たなインタフェー スの提案を行った <DT Design Awards 国際コンペティ ション 2006 カメラ部門優秀賞>
7. 成形合板の椅子	単著	平成 28 年 3 月	札幌大谷大学・札幌大谷 大学短期大学部紀要第 46 号, p. 113~116	特殊な設備を必要としないハンドメ イドによる成形合板技術の検証から スツールの制作を行った。
8. クリの椅子	単著	2019 年 3 月	札幌大谷大学・札幌大谷 大学短期大学部紀要第 49 号, p. 161~164	道内産クリ材を用いたリビングチェ アの制作
9. エゾシカニカワ	共著	2019 年 5 月	大丸藤井セントラル	エゾ鹿のカワカワ抽出した膠の商品 化に向けたブランディング。ロゴデ ザイン、パッケージデザイン、ホー ムページのデザインを行い店頭販売 を実施。 http://www.ezoshikanikawa.com/
(報告書) 1. カーサウンドの新規 デザイン提案	共著	平成 13 年 3 月	東北芸術工科大学地域 創造センター報告書	東北パイオニアとの産学連携におい て CARROZZERIA ブランドのカースピ ーカーデザイン提案 (共同研究者) 玉田俊郎, <u>鳥宮尚道</u>
2. 京丹後市観光サイン 計画プロジェクト	共著	平成 16 年 10 月	京都工芸繊維大学 共同研究報告書	市町村合併による京丹後市の誕生に 伴い、市内における観光サインのリ ニューアルを計画し、複数年度によ るサインの設置を行った。 (共同研究者) 福田民郎, <u>鳥宮尚道</u>
3. 京都府農業公園丹後 あじわいの郷イルミ ネーションデザイン	単著	平成 17 年 4 月	京都工芸繊維大学 共同研究報告書	あじわいの郷のメインエリアに集客 を狙いとしたイルミネーションデザ インを計画。イルミネーションのカ スタマイズ可能な機器を提案。
4. 夕日ヶ浦温泉地域活 性化実験プロジェク ト	共著	平成 18 年 5 月	京都工芸繊維大学 共同研究報告書	地域のシーズ発掘のためのサーベイ と旅館宿泊者アンケートを中心に地 域活性化の基本方策を立案 (共同研究者) 福田民郎, 山本建太 郎, 西村雅信, <u>鳥宮尚道</u> , 角田暁治, 佐々厚司, 笠原一人
5. 夕日ヶ浦温泉地域将 来計画	単著	平成 20 年 4 月	京都工芸繊維大学 共同研究報告書	地域住民及び観光業者からの聞き取 りを中心に行い、府市へ提言する地 域将来計画を策定。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(展覧会) 1. 東北芸術工科大学助手・副手展 2. DT Design Award 2006 入選作品展 3. くさつ街あかりプロジェクト	共著 単著 共著	平成 13 年 7 月 平成 19 年 6 月 平成 20 年 11 月	東北芸術工科大学 7 階ギャラリー GALLERY le bain 草津市駅前	PC 入力デバイス「MIGONASHI」の制作ギャラリー 国際コンペ「特殊と普遍」DT Design Award2006 の入選作品展 草津市駅前にて行われる、くさつ「街あかり」に参加し、小汐井神社境内にて京都・大阪のデザイン系大学とともに作品展示を行った。
(その他) 1. 京丹後市赤坂工業団地壁画 2. 旅の駅かに一番グラフィックデザイン業務 3. 幼児用オリジナル食器デザイン開発	共同 単著 共著	平成 20 年 8 月 平成 22 年 2 月 平成 28 年 9 月	京都府京丹後市赤坂工業団地 旅の駅かに一番久美浜店 朝日化工株式会社製品カタログ	赤坂工業団地の複数企業からの依頼により、全長役 240m の外壁に壁画制作。丹後の特産物、四季を表現した。 北畿リゾート株式会社の依頼により、当社が運営する店舗「旅の駅かに一番 久美浜店」外観グラフィックデザインの制作を行った。 朝日化工株式会社との連携事業による幼児用食器のグラフィックデザイン業務